

パソコン 第2問

みなさん、こんにちは。吉田隆之といいます。大阪公立大学都市経営研究科で文化政策を教えています。今日は、「美術館の使命・目標とは」というテーマでお話をさせていただきます。

現代アートといっても皆さんには、なじみがないかもしれません。国外の主要都市、ロンドン・パリ・ニューヨーク・シドニー・リヨン・ベルリンといった各都市では、現代アートが都市格向上に貢献するという認識が共有されています。そうしたことから各都市では、現代アートに特化した美術館やアーツセンターが設置されています。設置されていなくても美術館のこれまでのコレクションの延長として、現代アートがさりげなく展示されたりしています。国内でも東京の大都市では、いくつかの現代アートの美術館があります。また、地方都市金沢では21世紀美術館。この名前はお聞きになったことがあるかと思いますが、観光面で成果を上げています。

一方で私が働いている大阪なんですけども、現代アートになると手薄な印象を持たれています。それでも、いくつかの国公立美術館やコレクションがあり、活用の仕方を工夫することで、そうした現代アートのイメージをより多く大阪で結びつけて考える人がもっと増えるのではないかと私は考えています。

ここからが本題になります。大阪府現代芸術文化センター構想。これが副題の騒動に係る話なんですけれども。大阪府の方も87年、現代芸術文化センター構想を立ち上げます。ところがですね、バブルが崩壊して進展がなく、96年に事業が凍結されてしまいます。2001年に政策変更され、もう廃止が決定してしまうんですね。一方で、この現代芸術文化センター構想を実現するために、90年代にコレクションの収集をしていた大阪トリエンナーレというのを90年代に10年間、毎年1億円をかけて約300点の美術作品を収集しました。この90年代に10億円近くを支出して、美術作品を収集しました。これがですね、計画がとん挫して宝の持ち腐れとなってしまったんです。この作品をどうしたかという、持ってるだけではもったいないということで、一部は大阪モノレールの駅の空いたスペースを使って作品を展示したりとか、あるいはコレクション活用事業というのがあって一部の作品を細々とですけども企画展示するようなことをしてきました。去年の1月ですよ。毎日新聞で、大型作品の105作品が大阪府庁の地下駐車場に保管していたんですね。それが新聞にすっぱ抜かれて、見出しが割と強烈で、「美術品を粗大ゴミ扱い」。大阪としては、そのつもりはなかったんですけども、そういったセンセーショナルな見出しをつけられたこともあって、他の各新聞もそれを同じように取り上げ、SNSでも取り上げられて、結構いかがなものかという空気が当時あったかと思います。

その後、大阪府知事もそれはいかなものかと言って、別の施設に移して、今その取り扱いについては専門家の会議を設置して対応について協議中ということ。この2月にも結論が出ると聞いています。そういった問題が起きたことで、単に大阪府の問題ではなくて、作品をどういう形で保管していくのか。使命をどう考えるのか。そういったところにも関わる。これは美術館にとって共通の問題であり、あと一方で、日本の美術館は後でお話しますが、コレクションがなかなか少なく、欧米に比べると。そういった美術館のあり方を考える大きな問題提起がされたとは私は認識しています。